

真波のいろは

四の巻

田村の暮らしづくり

こんにちは。地域の商材や魅力開発を行っている地域おこし協力隊の中山真波です。

東京都荒川区から田村市へ移住し、田村での活動は今年5月で丸2年が経ち、3年目に突入します。田村市で2度目の冬を迎え、地域の方々の活動の中で、囲炉裏を囲みながらの打合せスタイルは、都会では考えられない仕事時間であり、この上ないぜいたくな田村時間と自慢のワークスタイルと感じています。

そんな中、田村の農と食をつなげ、地域食を伝承する取り組みとして、活動拠点であるテレワークセンターテラス石森で、着任後2回目の「農家さんを囲んだ味噌作り体験」を行いました。今年度はたくさんの子が参加し、協力の輪から仕上がるお味噌が、日常の食事のひとつに生まれ変わることが今から待ち遠しく楽しみです。また、一昨年の体験事業で作った味噌の



▲「農家さんを囲んだ味噌作り体験」の様子



▲ここから、ナミナミファームが始動！

試食会を行いました。このような循環型の体験は、少子化で食文化が薄れゆく時代の中で、後世に受け継ぐ大切な時間と考えます。

新年度は、食文化をテーマに活動を進める中で、原点である「農」時間を共有しあえる遊休農地を活用する農園を立ち上げ、新しいコミュニティ作りを行います。

それは、地域の方々と共に、次世代を担う若者や子どもたち、そして地域外の方々も含め、ひとりでは難しい土壌作りから畑を作り、作物を育て、夏は虫や草と闘い、作物が育つ過程や失敗、研究を繰り返しながら収穫を行い、食卓を彩り、体も心も潤える「コミュニティ農園」です。さらに、コミュニティ農園を拠点に、循環型の地方モデル創出や多様なライフスタイル、田村で暮らしをつくる提案を目指します。

近年、高齢化による担い手不足で、地域の衰退が加速化していく中、コミュニティ農園を軸としたさまざまな活動への関わりを契機に、田村で暮らしをつくりたいと考えています。

そこで皆さんに支援のご協力をお願いです。まだまだ使用可能な、物置の隅に眠っているスコップや鍬、野菜コンテナなどがございましたらご支援いただければ幸いです。エコやサステイナブルな生き方も、田村での大切な暮らし方と考え、共感するつながりの輪を広げていきたいと考えます。

☎ テレワークセンターテラス石森
田村市船引町石森字館 108

Nami Nami farm

nami-nami farm
【Instagram】▶▶
☎61-7575



料理への情熱



Roslyn Nicole Ludden
ロスリン・ニコル・ルデンさん
(アメリカ合衆国
カリフォルニア州出身)
田村市に来て2年目

私は、日本に来る前、創作料理を作る人たちにいつも感心し、テレビの料理番組「Master Chef」、「Street Food」、「Cupcake Wars」、「Sam the Cooking Guy」などを見るのが楽しみでした。

しかし、私はそれらの料理に挑戦したいと思ったことは一度もありませんでした。料理番組で刺激を受け、いろいろなレストランで食べた料理をまねる母の才能や、世界中の料理を創作する兄の情熱は私にはなく、料理好きにはなれませんでした。

その上、私は料理を何度も失敗したことがあります。私の家族に会う機会があれば、「Springtime Tuna」について聞いてみてください。私の失敗談を教えてください。

私には料理の技術は必要なく、料理の材料を手渡したり、使ったお皿を洗ったりする手伝いができればそれで良かったのです。それなのに、日本に来ることで自炊が必要となりました。初めは心配でしたが、料理することを考えるとわくわくするようになり、いつしか料理を覚えたい気持ちになりました。

日本で自炊を始めて1カ月間、火事になったり、お腹が痛くなったたりすることはなく、けっこうおいしい食事を作ることができました。上手に料理ができる度に自信がついて興味もでてきました。

料理はただ自分が生き残るために必要な技術ではなく、やり始め、喜びの経験に変わり、新しい調理法を見つけて試してみるのがとても楽しくなりました。

今では、料理の時間は、リラックスして、創造力を働かせて他の人たちと



自分の経験を共有することができ、新しい調理法に挑戦したり、週2回一緒に夕食を料理するために外国人英語教師と集まりました。作ったお菓子を友人や同僚と分け合ったりするのが楽しみです。

もし街中で私を見かけたら、おすすめのレシピを教えてください。ぜひ、試してみたいと思います。

広告欄 Advertisement

有料広告募集中

問い合わせ…総務部 経営戦略室 (☎0247-81-2117) へ